

日中日本語教育の比較研究 (4)

Japan and China Comparative Studies of Japanese Language Teaching (4)

章 潔、小嶋 栄子

要旨

今日の日本語教育の多様化を受け、様々な学習諸条件の違いに対応でき、効果的なカリキュラムの立案、適切な教材の開発や教授法の選択が行える、実践的な日本語教員の養成を目指すために、本学は中国淮北師範大学と連携し、日本語教育に関する交流活動を行ってきた。従って、本研究は両大学の教員らが日本語関連科目の授業見学、参加や集中講義などの実践を行い、教材作成・教授方法・評価方法などを実習することによって、日中日本語教育を比較することを目的とするものである。

キーワード

日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト (JLPT Can-do)、意見、理由

I. はじめに

2013年10月30日、長崎短期大学国際コミュニケーション学科と中国淮北師範大学日本語学科と学術・教育交流に関する協定をした。協定の第1条（双方は相互尊重、平和互惠、友好協力の原則をもって、次の事項についての実施と発展に努力する。①教員の交流、②学生の交流、③留学生の派遣、④学術資料、刊行物および学術情報の交換。）に基づき、本学の国際コミュニケーション学科の教員1名（小嶋）が淮北師範大学からの要請を受け、2018年9月17日から21日までの1週間にわたって、中国の安徽省淮北市に赴き、師範大学の特任教授である章と合同で集中講義を行った。受講対象者は淮北師範大学の日本語学科の学生167名である。そのうち、3年生は57人（1組29人、2組28人、2016年9月入学）、2年生は55人（1組27人、2組28人、2017年9月入学）、1年生は55人（1組26人、2組29人、2018年9月入学）である。講義内容は、小嶋（長崎短期大学）担当の「日本の文学」・「小論文」・「発音」と章（淮北師範大学）担当の「日本語能力試験（1級）対策」・「キャリアデザイン」・「発音」の5科目となっている。以下の表1・2に今回の集中講義のスケジュールを記した。

II. 日中日本語教育の比較

1. 考察①（章）

今回の集中講義において、3年生たちに「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト」を導入し、日本語能力試験の「文字・語彙」、「聴解」、「読解・文法」対策について紹介した。ここでは、主に淮北師範大学生の「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト」の統計結果について分析と考察を試みたい。

表1 集中講義時間割 (小嶋)

	9月17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
1限 8:00～8:45				日本の文学⑤ 3年1・2組	発音① 1年1組
2限 8:55～9:40				日本の文学⑥ 3年1・2組	発音② 1年1組
3限 10:00～10:45	日本の文学① 3年2組	日本の文学① 3年1組	小論文③ 2年2組		
4限 10:55～11:40	日本の文学② 3年2組	日本の文学② 3年1組	小論文④ 2年2組		
5限 14:30～15:15		小論文① 2年1組		小論文③ 2年1組	日本の文学⑦ 3年1・2組
6限 15:25～16:10		小論文② 2年1組		小論文④ 2年1組	日本の文学⑧ 3年1・2組
7限 16:30～17:15	小論文① 2年2組	日本の文学③ 3年1・2組		発音① 1年2組	
8限 17:25～18:10	小論文② 2年2組	日本の文学④ 3年1・2組		発音② 1年2組	

表2 集中講義時間割 (章)

	9月17日(月)	18日(火)	19日(水)	20日(木)	21日(金)
1限 8:00～8:45			N1「読解」① 3年1・2組		発音① 1年2組
2限 8:55～9:40			N1「読解」② 3年1・2組		発音② 1年2組
3限 10:00～10:45	キャリアデザイン① 2年1組	キャリアデザイン③ 2年1組	N1「読解」① 3年2組		N1「文法」① 3年1・2組
4限 10:55～11:40	キャリアデザイン② 2年1組	キャリアデザイン④ 2年1組	N1「読解」② 3年2組		N1「文法」② 3年1・2組
5限 14:30～15:15	N1「文字・語彙」① 3年1・2組	キャリアデザイン① 2年2組		キャリアデザイン③ 2年2組	
6限 15:25～16:10	N1「文字・語彙」② 3年1・2組	キャリアデザイン② 2年2組		キャリアデザイン④ 2年2組	
7限 16:30～17:15	N1「聴解」① 3年1組			発音① 1年1組	
8限 17:25～18:10	N1「聴解」② 3年1組			発音② 1年1組	

(1) 日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト (JLPT Can-do) とは

国際交流基金・日本国際教育支援協会は2010年9月から2011年12月まで、日本国内と国外の日本語能力試験の受験者、約65,000人に対してアンケートを実施した。このアンケートは、「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4つの技能について、Can-do¹項目を設問し、「どのぐらいできるか」という自己評価を、「4(できる)」、「3(難しいがなんとかできる)」、「2(あまりできない)」、「1(できない)」の4段階で答えるものである。アンケート調査の結果に基づき、国際交流基金・日本国際教育支援協会は4つの技能のCan-do項目を難易度順に配列し、各レベルの合格者がそれぞれのCan-do項目について、「できる」と考える割合を推計した。そして、最終的に各技能20個のCan-do項目を選んで、作成したのは、「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト (JLPT Can-do)」である²。「JLPT Can-do」を通して、淮北師範大学の3年生が自分の日本語能力をどう捉えているかをイメージすることができ、今後の教授活動、特に日本語能力試験の受験対策を組み立てる際の参考にすることができると思われる。

(2) 淮北師範大学日本語学科3年生の「JLPT Can-do」

まず、以下の「表3～6」について説明をしておく。4つの技能を、「聞く(表3)」、「話す(表4)」、「読む(表5)」、「書く(表6)」に分けて、各技能20個のJLPT Can-do項目(出典：日本語能力試験公式ウェブサイト)を引用し、「表3～6」を作成した。そして、「表3～6」の中の「①～④」³は、各レベル(N5～N1)の合格者が「できる」と考える割合を、①25%未満、②25%以上50%未満、③50%以上75%未満、④75%以上、の4段階で表示したものである。また、「表3～6」の「淮」は「淮北師範大学日本語学科3年生」の略である。「人」は、Can-do項目を「できる」と自己評価した人数であり、「%」の計算方法は「%」=「人」÷「有効サンプル数」×100(四捨五入)である。

1 「Can-do」とは、「Can-do Statements」の略であり、外国語を使って「何が、どれだけできるか」を「～できる」という形式で示した文である。(出典：日本語能力試験公式ウェブサイト「<https://www.jlpt.jp/>」)

2 日本語能力試験公式ウェブサイトを参考し、章が整理した。

3 区別・比較するために、淮北師範大学の学生たちのCan-do4段階を「①～④」に表示した。「①～④」の値のパーセンテージは「①～④」と変わらない。

[1] 「聞く」 JLPT Can-do

「聞く」JLPT Can-doの有効サンプル数は55名(3年生全員57名)であり、統計結果を表3にまとめてみた。Can-doの4段階は、「④：17～20」、「③：9～16」、「②：7～8」、「①：1～6」の順となっている。「④：17～20」は現在、中国の大学日本語教育の中において、必ずマスターしなければならない「日本語会話」の技能項目とされているため、高い自己評価「85～95%」となったのである。その中でも「項目20(自己紹介)」が1・2学年の聴解試験によく出題される内容である(評価「95%»)。「項目19(店・郵便局・駅などでよく使う言葉)」は中国国内の大学生が日常生活の中でほとんど触れず、教科書だけで勉強する内容であるため、やや低い「85%」となっている。

「③：9～16」の中で、「14～16」(「雑談・自由な会話」・「道順・乗換」・「日常的な話題」)は「N2」レベルに到達したものの、「9～13」は「N3以上・N2未満」となっている。その中で最も低い「53%」になったのは、「項目11(テレビドラマ映画)、項目12(商品の説明)、項目13(駅やデパートでのアナウンス)」である。「項目12・13」は「項目19」と同じく、日本語が聞ける環境に置かれていないことが原因であると思われる。また、「項目11」は「インターネットを使って日本語のドラマ映画を見たりするが、中国語字幕付きのものが多かった」(淮北3年生C・H)などが理由として挙げられた。

「②：7(話の流れ)8(議論討論の内容)」と「①：1～6」は両方とも「N2」レベルに達している。難易度の最も高い「項目1(政治・経済についてのテレビのニュース)」は「7%(4人)」のJLPT Can-do評価となっ

表3 「聞く」 JLPT Can-do

	Can-do 項目	N1	N2	N3	N4	N5	准	%	人						
1	政治や経済などについてのテレビのニュースを見て、要点が理解できる。	①						7%	4						
2	最近メディアの話題についての会話で、だいたいの内容が理解できる。							15%	8						
3	フォーマルな場でのスピーチを聞いて、だいたいの内容が理解できる。	②	①				①	22%	12						
4	思いがけない出来事についてのアナウンスを聞いて、だいたいの内容が理解できる。							20%	11						
5	仕事や専門に関する問い合わせを聞いて、内容が理解できる。							15%	8						
6	関心あるテーマの講義や講演を聞いて、だいたいの内容が理解できる。							18%	10						
7	学校や職場の会議で、話の流れが理解できる。			①	①		②	27%	15						
8	関心あるテーマの議論や討論で、だいたいの内容が理解できる。			36%	20										
9	身近で日常的な内容のテレビ番組を見て、だいたいの内容が理解できる。	③	②					56%	31						
10	身近で日常的な話題についての話し合いで、話の流れが理解できる。							65%	36						
11	標準的な話し方のテレビドラマや映画を見て、だいたいの内容が理解できる。							53%	29						
12	店で商品の説明を聞いて、知りたいことがわかる。							③					③	53%	29
13	駅やデパートでのアナウンスを聞いて、だいたいの内容が理解できる。													53%	29
14	周りの人との雑談や自由な会話で、だいたいの内容が理解できる。								③					71%	39
15	簡単な道順や乗換についての説明を聞いて、理解できる。													62%	34
16	身近で日常的な話題についての会話がだいたいの内容が理解できる。							④						71%	39
17	簡単な指示を聞いて、何をすべきか理解できる。	91%	50												
18	先生からのお知らせを聞いて、集合時間、場所などがわかる。	④		③			④	91%	50						
19	店、郵便局、駅などで、よく使う言葉を聞いて、理解できる。			③	③			85%	47						
20	教室で、先生や友達の簡単な自己紹介を聞いて、理解できる。			④	③			95%	52						

ており、専門用語・外来語が大量に使用されたからであると思われる。

「聞く」JLPT Can-do の統計結果から見ると、淮北の3年生は、4つの技能の中において、「聞く」ことに最も自信を持っておらず、自己評価が「N2」そして「N3以上・N2未満」になったのである。

[2] 「話す」 JLPT Can-do

「話す」JLPT Can-doの有効サンプル数は46名であり、統計結果を表4に示した。Can-doの4段階は、「④：14～20」、「③：8、10～13」、「②：5～7、9」、「①：1～4」の順となっている。「④：14～20」の中で、「項目14（日常的な話題）」、「項目15（日時を決める）」、「項目16（自分の気持ちの説明）」の3項目が「N1」レベルに到達している。これは、淮北師範大学の学生たちが、会話テキストでよく出る日本語表現や単語に対する習熟度が高いからであると思われる。また、「項目18（趣味や興味）」、「項目19（自己紹介）」がCan-do評価「100%」となっており、「自己紹介」に関連する日本語表現の教授が日本語会話において重要度が非常に高いことが窺える。

「③：8、10～13」については、「項目8（旅行の計画・パーティーの準備）」は「N1」レベルに到達しているが、「項目10（道順・乗換の説明）」、「項目11（送別会のスピーチ）」、「項目12（買いたいものについての質問）」、「項目13（電話で遅刻等の連絡）」は「N3以上・N2未満」となっている。「項目8」については、時間・時刻・場所の表現が多く使われているため、学生たちの「よくできる」自己評価に繋がったと思われる。「項目10～13」については、淮北師範大学の学生にとって、日常生活の中であまりアウトプットしない日本語表現・単語が多く含まれているため、低い自己評価になったのである。「遅刻・欠席の連絡は電話を使ったことがない。ルームメイトやクラスメイトにお願いして、先生に伝えてもらうのが普通」(淮北3年生C・YT)という声もあがった。そして、「②：5～7、9」と「①：1～4」は「項目4（丁寧な言い方とくだけた言い方の使い分け）」を除いて、すべて「N2」レベルに到達している。「項目4」は中国大学における日本語教育（会話）の一つの大きな問題点である。それは、日本語母語話者が人間関係・場所・シチュエーションによって、会話の中で「丁寧な言い方」と「くだけた言い方」を自然に使い分けしているのに対して、中国大学の日本語会話教科書には、「です」「ます」

表4 「話す」 JLPT Can-do

	Can-do 項目	N1	N2	N3	N4	N5	准	%	人					
1	関心ある話題の議論や討論に参加して、意見を論理的に述べることができる。	②	①				①	11%	5					
2	最近話題になっていることについて質問したり、意見を言ったりすることができる。							20%	9					
3	思いがけない出来事の経緯や原因について説明することができる。							20%	9					
4	相手や状況に応じて、丁寧な言い方とくだけた言い方が使い分けられる。							7%	3					
5	最近見た映画や読んだ本のだいたいのストーリーを紹介することができる。	③		①	①	①	48%	22						
6	クラスのディスカッションで、相手の意見に賛成か反対かを理由とともに述べられる。						28%	13						
7	準備をしていれば、自分のよく知っている話題についてプレゼンテーションができる。						35%	16						
8	友人と旅行の計画やパーティーの準備などについて話し合うことができる。			②					61%	28				
9	アルバイトや仕事の面接で希望や経験を言うことができる。								41%	19				
10	よく知っている場所の道順や乗り換えについて説明することができる。								③			③	57%	26
11	準備をしていれば、自分の送別会などフォーマルな場で短いスピーチができる。												59%	27
12	店で買いたいものについて質問したり、希望や条件を説明したりすることができる。												74%	34
13	電話で遅刻や欠席の連絡ができる。												72%	33
14	身近で日常的な話題について会話ができる。	②			②	87%	40							
15	相手の都合を聞いて、会う日時を決めることができる。					83%	38							
16	自分の気持ちと、その理由を簡単なことばで説明することができる。					83%	38							
17	自分の部屋について説明することができる。	④	③	③	④	96%	44							
18	趣味や興味のあることについて、話すことができる。					100%	46							
19	店、郵便局、駅などで、よく使われることばを使って、簡単なやり取りができる。					91%	42							
20	自己紹介をしたり、自分についての簡単な質問に答えたりすることができる。					100%	46							

のような「丁寧な言い方」が「くだけた言い方」より圧倒的に多いことである。また、淮北の学生たちにとって、日常生活の中において日本語の使用対象は、ほぼ教員なので、「くだけた言い方」がほとんど使われていない。そのため、自己評価が最も低い「7% (3人)」となったのである。

「話す」JLPT Can-do の統計結果から見ると、淮北の学生たちは、得意分野である「自己紹介」などの項目では、「N1」レベルに到達したものの、日本国内の留学生なら比較的長けている「アルバイトの面接」・「電話での連絡」あるいは「くだけた言い方」などの項目については、やや劣っている。これから、会話のテキスト・授業の中に、より日常会話に即した表現や、より実践的で使える会話力を養う内容を取り入れることが望ましいと思う。

[3] 「読む」 JLPT Can-do

「読む」JLPT Can-do の有効サンプル数は51名であり、統計結果を表5に示した。Can-do の4段階は、「④:8、12~20」、「③:5、9~11」、「②:6~7、2~4」、「①:1」の順となっている。「④:8、12~20」の中では、「項目8 (記事を読んで内容が理解できる)」のCan-do評価が「75% (38人)」となっており、「N1」レベルを超える結果となった。この結果の理由は、①記事の中でよく出る漢字に対する理解度が抜群に高い、②「日本語多読 (範読)」の授業では、新聞の記事がたくさん用いられ、日頃の練習から高い読解力が養われた、などが挙げられる。

また、「③:5、9~11」の「項目5 (専門的な文章)」、「項目9 (ガイドブックや情報誌)」と、「②:6~7、2~4」の「項目2 (論説記事を読む)」、「項目3 (小説を読む)」は「N1」に準ずるレベルに達した。この2項目のCan-do評価が高くなった理由も、上記の「項目8」と同様に推察できる。

[4] 「書く」 JLPT Can-do

「書く」JLPT Can-do の有効サンプル数は51名であり、統計結果を表6に示した。Can-do の4段階は、「④:9~10、12~20」、「③:7~8」、「②:3、11」、「①:1~2、4~6」の順となっている。まず、「④:9~10、12~20」と「③:7~8」については、「項目11 (手紙やメールを書く)」を除き、すべて「N1」レベル

表5 「読む」 JLPT Can-do

	Can-do 項目	N1	N2	N3	N4	N5	准	%	人
1	政治、経済などについての新聞や雑誌の記事を読んで、要点が理解できる。						①	22%	11
2	論説記事を読んで、主張・意見や論理展開が理解できる。	②						26%	13
3	人物の心理や話の展開を理解しながら、小説を読むことができる。		①				②	41%	21
4	エッセイを読んで、筆者の言いたいことがわかる。							27%	14
5	関心のある話題についての専門的な文章を読んで、だいたいの内容が理解できる。			①			③	55%	28
6	敬語が使われている正式な手紙やメールの内容が理解できる。				①		②	26%	13
7	仕事相手からの問い合わせや依頼の文章を読んで、理解できる。	③				①		39%	20
8	身近で日常的な話題についての新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。		②				④	75%	38
9	旅行のガイドブックや、進学・就職の情報誌を読んで、必要な情報がとれる。							51%	26
10	一般日本人向けの国語辞典を使ってことばの意味が調べられる。						③	53%	27
11	商品のパンフレットを見て、知りたいことがわかる。							47%	24
12	短い物語を読んで、だいたいのストーリーが理解できる。			②				78%	40
13	知人や友人から来たはがきやメールを読んで、理解できる。							76%	39
14	学校、職場などの掲示板を見て、必要な情報がとれる。		③		②			82%	42
15	新聞の広告やチラシを見て、安売り期間や値段などがわかる。	④						76%	39
16	駅の時刻表や案内板を見て、自分が乗る電車の時間がわかる。					②	④	84%	43
17	年賀状や誕生日のカードを読んで、理解できる。					②		92%	47
18	簡単なメモを読んで、理解できる。			③				92%	47
19	絵の付いた簡単な指示がわかる。		④		③			80%	41
20	学校などで面接の予定表を見て、自分の面談の曜日と時間がわかる。					③		88%	45

表6 「書く」 JLPT Can-do

	Can-do 項目	N1	N2	N3	N4	N5	准	%	人
1	論理的に意見を主張する文章を書くことができる。						①	8%	4
2	思いがけない出来事について説明する文章を書くことができる。	②						10%	5
3	料理の作り方や機械の使い方などの方法を書いて伝えることができる。						②	27%	14
4	自分の関心のある分野のレポートを書くことができる。		①					20%	10
5	目上の知人あてに、基本的な敬語を使って手紙やメールを書くことができる。			①			①	16%	8
6	自分の送別会などでの挨拶スピーチの原稿を書くことができる。	③			①			18%	9
7	学校や会社への志望理由などを書くことができる。					①	③	57%	29
8	最近読んだ本や見た映画のだいたいのストーリーを書くことができる。						③	55%	28
9	理由を述べながら、自分の意見を書くことができる。						④	76%	39
10	体験したことや、その感想について、簡単に書くことができる。		②					80%	41
11	知人に、感謝や謝罪を伝える手紙やメールを書くことができる。						②	35%	18
12	自分の日常生活を説明する文章を書くことができる。							88%	45
13	将来の計画や希望について簡単に書くことができる。			②				84%	43
14	短い日記を書くことができる。							94%	48
15	友人や同僚に日常の要件を伝える簡単なメモを書くことができる。	④	③		②			80%	41
16	自分の家族や町などの身近な話題について簡単に書くことができる。					②	④	86%	44
17	予定表やカレンダーに、短いことばで自分の予定を書くことができる。							76%	39
18	誕生日のカードや短いお礼のカードを書くことができる。			③	③			86%	44
19	簡単な自己紹介の文を書くことができる。		④			③		96%	49
20	書類に、名前や国名などを書くことができる。			④	④	④		88%	45

に到達したのである。「②:3, 11」と「①:1~2, 4~6」については、全部「N2」レベルに達しており、その中の「項目3(料理の作り方・機械の使い方)」が「N1」レベルに準ずる Can-do 評価となった。この結果から、中国の大学生(3年、4年)たちは4つの技能の中において、「書く」ことに最も自信を持っている傾向がみられる。

また、「項目9(自分の意見を書く)」の Can-do 評価は「N1」以上になっている(76%「39人」)のに対し、「項目11」は「N3」または「N2」レベルにとどまっている。淮北師範大学の「日本語作文」授業において、学生たちが、作文の課題としては、とりわけ「自分の感想」、「自分の意見」などがよく課せられ、書く練習を積み重ねてきた。「料理の作り方・機械の使い方」に関しては、「なぜ高評価になったのか」を、淮北の学生たちに聞き取り調査をしたところ、十分に納得できる結論が得られなかった。おそらく、「料理の作り方」などに関する日本語表現・言葉を教科書から習得したことに起因するのではないかと思う。一方、インターネットや携帯電話の普及によって、「手紙・はがき」を書く機会が大幅に減少している。そして、「Wechat」や「QQ」などをはじめとした中国の SNS が日常生活に欠かせないものとなっており、まだ就職していない大学生たちは電子メールで人とやり取りする機会も滅多にないのである。以上の理由で、「項目11」は、やや低い Can-do 評価になったと思われる。

2. 考察②(小嶋)

ここでは、章ら(2017)で報告したことの続報として、さらに、淮北師範大学の学生たちがおこなった「形容詞の使用法の誤用」と「形容詞『ない』の使用法の誤用」について分析し、彼らが自己修正できるようになることを目的として、その指導内容を提案することにした。

本講義の具体的目標

フォーマル・タイプの代表的文書
基礎的「小論文」を書けるようになること

↓

「小論文」とは何か
書き方のセオリーを身につけよう

1

言葉で自分を見せる

- すべての自己表現の基本

2

小論文とは？

- 小論文
理由をあげて自分の意見を述べる文章
→その場の限られた時間内で作成

(参考までに)レポートとは
調査・研究の結果わかった事実とそれに基づき自分の意見をまとめた報告書
→ある程度の時間をかけて作成

3

「小論文」の別名は意見文

- 「あいまい(なんとなく・あれもこれも)」ではなく、「断定」した意見を述べなくてはならない。
- 意見は、問題に対する解決である。
- 意見には理由(なぜなら・・・からだ。)を書く
- 理由を裏付けする具体例を書く

4

では、「意見」とは...

- 賛否
賛成か反対か？
- 選択
あっちかこっちか？
- 予測、改善などの改善策
こうなるだろう。こうした方が良い。

5

執筆の基本的手順

- 1、まず意見を述べる(2行)
私は〇〇に賛成だ。私は〇〇の方を選ぶ。
- 2、その理由を書く(4行)
なぜなら……だからだ。
- 3、理由の具体例や詳しい説明を書く(10行)
たとえば……。私が小さい頃……。
- 4、結論(4行)
以上のことから、私は……だ。

6

意見と理由と……

- 成功するためには「努力」と「才能」とどちらが大事だと思いますか。
- <努力>
(意見)私は、やはり努力が大事だと思う。
(理由)人はおそらく10年間努力し続ければ、必ずその道の専門家になれるし、それで十分なのであって、それを成功と呼びたいからである。

1

推敲時のポイント

- 段落を分けているか
- 文体が統一されているか(「である体」がよい)
- 一文の長さは適切か(上限は1文80字程度)
- 主語・述語が呼応しているか
- 話し言葉(だけど、やっぱーなど)を使っていないか
- 誤字・脱字はないか
- あいまいな接続の「が」はないか
- 他人の文章を自分が書いたように扱っていないか

1

(1) 教材と方法

今回は、「小論文の書き方」の授業として、2年生を対象に合計4時間(日本の授業数で2コマ)の授業を行った。章ら(2017)で報告した時よりも授業のコマ数が少ないため、まず学生たちに「本講義の具体的目標」として「基礎的『小論文』を書けるようになること」を簡潔に示した。その上で『『小論文』とは何か』を理解させるため、図1(スライドの抜粋)に示したスライドを使って説明をした。説明の手順は以下の通りである。

まず、導入の部分で、文章を書くことは言葉を使った自己表現の基本であることを理解させ、次に、その自己表現の代表的なタイプとして「日記やメールのようにカジュアルなもの」と「記録やレポートや論文のようにフォーマルなもの」とがあることを説明した。

そして、小論文は後者のタイプの文章に属し、「自分の意見を書く文章」であること、別名「意見文」と呼ばれることもあるということを示した。その上で、意見を述べるときには、基本的な3種類のパターン、すなわち、「賛否→賛成か反対か?」「選択→四者択一など」「予測、改善などの課題解決策→こうなるだろう。こうした方が良い。」のどれかで述べていけばよい、ということを経験者に理解させた。

さらに、その意見に説得力を持たせるために「自分がその意見を持つに至った理由をあげる」ことが重要なことを説明した。理由は自分の意見を読者に納得させるための最初の手段である。そして本来ならば、これらの理由に続いて「意見の裏付けとなる具体例をあげ、自分が示した意見をさらに強固にすること」が必要であるが、4時間という限られた授業時間数のため、今回この具体例の部分の学生たちの作業は割愛した。

(2) 事例報告

以下に、図1に示したスライドでの説明の後、学生たちに書かせた「意見と理由」を提示する。それぞれの課題で提出されたもののうち典型的と思われる事例を示し、その中に見られた誤用を分析した(すべて原文の

ママ)。修正した部分以外にも文法上の間違いはあるが、そのことについてはここでは触れない。

[1] 形容詞の使用法の誤用

課題 (1) 次のテーマについて、意見と理由を書く。

「子どもにとっては、人口が多い大都市で育つよりも、自然に囲まれた田舎で育つ方がいい」という意見があります。あなたは、この意見に賛成ですか、反対ですか。

①私はこの意見に賛成です。

人口が多い大都市の環境はあまりよくない。田舎の空気がきれいし⁽⁷⁾、汚染も少ないです。

大都市では自然の風景が少なく、人口が多くために⁽¹⁾、田舎よりうるさいです。(W. F.)

②私はその意見に反対します。人口が多い大都市で育つ方がいい。

大都市の教育水準は高いで^(ウ)、教育の質量もよい。知識を学ぶことができる。

自然に囲まれた田舎で育てれば、科技的なものに接触する機会が少ない。(T. S.)

(ア) は、「きれいだし」を「きれいし」にした誤りである。

この誤りの指導はまず、日本語の形容詞には「い形容詞」と「な形容詞」があるが、「きれい」は「きれいな」がもとの形であり、「赤い」「優しい」のような「い形容詞」ではなく、「静かな」「豊かな」のような「な形容詞」であることを思い出させる。

そして、「い形容詞 (優しい)」が並立の意味を表す接続助詞「し」に接続するときは、「お母さんは優しいし、きれいだ。」のように「もとの形のまま」で接続し、「な形容詞 (きれいな)」が「し」に接続するときは、「お母さんはきれいだし、優しい。」のように「だ」を「な」に変えて接続することを指導する。

(イ) は、「多いために」を「多くために」にした誤りである。

「ため」はもともと「利益になること。役に立つこと」の意味を表す名詞であった。しかし、現在では「大学に 行くため はたらく。」のように形式名詞として使われることが多くなり、さらに助詞の「に」を伴って「大学に 行くために はたらく。」のように、「ために」全体で「原因」あるいは「理由」や「目的」を表すときに使う助詞のように使われることが多くなった。

したがって、「い形容詞」や「な形容詞」が「ために」に接続するときは、「ため」が名詞として使われた名残として、直前の形容詞は「い形容詞」も「な形容詞」もそのままもとの名詞を修飾する語形をとる。すなわち、「い形容詞」の「多い」が「ために」に接続するときは「多いために」となることを指導する。

(ウ) は、「高くて」を「高いで」にした誤りである。

まず、形容詞が述語として文の途中にくる時には、動詞と同じように形が変わることを再確認する。その後、「い形容詞」の場合は「い」を「く」または「くて」に変える (高い→高く、高くて)、「な形容詞」の場合は「な」を「で」に変える (きれいな→きれいで) ことを説明し、「高い」は「高くて」となることを指導する。

[2] 動詞「ある」の否定を意味する形容詞「ない」を「なければ」の形にする使用法の誤用

課題 (2) 次のテーマについて、意見と理由を書く。

ある人は「成功するために重要なのは、生まれつきの才能である」と言います。また、ある人は、「重要なのは努力である」と言います。あなたはどちらの意見に賛成しますか。

- ①私にとっては、重要なのは努力であるに賛成です。
努力があらないれば^(カ)、わたしたちは技術を習ぶことができません。
生まれつきの才能だけ依頼すれば、成功することができません。(T. F.)
- ②私は『成功するために重要なのは生まれつきの才能である』という意見に賛成します。
成功する人数が少ないからです。それは生まれつきの才能がある人が少ないからです。
人は生まれつきの才能がないが^(キ)、いくら努力しても無駄です。(W. B.)
- ③私は成功するために重要なのは努力だと思います。
ある人は才能が生まれついても、努力がないで^(ク)、最後に普通の人になります。
努力だけで機会があって、他の人に尊敬されています。(W. G.)
- ④重要なのは才能であるを賛成です。
才能がないから^(ケ)、どんなに努力しても成功しない。
生まれつきの才能である、成功は容易です。(不明)
- ⑤私は『重要なのは努力である』の見方に賛成します。
生まれつきの才能があれば、努力なければ^(コ)、成功を達成することもできないと思う。
一生懸命に全力を尽くしたら、自身の才能も上達になれると思う。(W. F.)

(カ) ~ (コ) はすべて、あること (= S 1) を条件としてあること (= S 2) が結果として起こるという関係の複文を作るときに、S 1の述語として使われている「ない」を「なければ」という形にしなければならない誤りである。

(カ)「あらないれば」では、まず、日本語の存在を意味する動詞「ある」の否定形は「あらない」ではなく、単に「ない」であることを確認する。そして、同時に「ない」は「い形容詞」として扱われることも指導する。次に、「い形容詞」の「～ば形」は「い」を「ければ」に変えて作る(ない→なければ)ことを指導する。

(キ)「ないが」および(ク)「ないで」では、まず両者とも、それぞれS 1に相当する「生まれつきの才能がない」「努力がない」とS 2に相当する「いくら努力しても無駄です」「最後に普通の人になります」は「条件」と「結果」の関係にあることを確認する。そして、これらの関係から複文を作るためには、それぞれS 1の述語として使われている「ない」を「なければ」という形にしなければならないことを指導する。

(ケ)「ないから」では、まず、「から」は、あること (= S 1) があること (= S 2) の起こる理由や根拠であるという関係の複文を作るときに使われることを説明する。このとき「条件」と「理由」の違いをはっきりと理解させる。次に、S 1に相当する「才能がない」とS 2に相当する「どんなに努力しても成功しない」の関係を考えさせ、S 1が「理由」ではなく、S 1とS 2の関係が条件と結果の関係にあることを確認する。そして最後に、この関係の複文を作るためには、S 1の述語として使われている「ない」を「なければ」という形にしなければならないことを指導する。

(コ)「なければ」は、この部分を見ただけでは間違いを見落としてしまう可能性がある。「なければ」という形自体は正しい形だからである。中国語には日本語のような助詞がないため、この学生のように前半で「…才能があれば」ときちんと助詞「が」を使用しているにもかかわらず、次に続く部分で「努力ない」

というようなケアレスミスをおかしてしまう学生が多く見られる。したがってここでは最初に、S 1に相当する部分が「努力ない」ではなく「努力がない」というように、助詞「が」が必要であることを指導するだけで十分である。

Ⅲ. まとめ

本研究において、章は主に淮北師範大学生の「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト」の統計結果について分析と考察をした。その結果、3年生は「書く」「読む」技能に対して、Can-do 評価がほぼ「N1」レベルに準ずるものとなっているものの、「聞く」「話す」技能に対して、Can-do 評価が「N2」レベルあるいは、やや低い「N3 以上・N2 未満」となっている。小嶋は、章ら (2017) に続き、中国語を母語とする淮北師範大学の学生たちが書いた文章に見られる「形容詞」と「ない」の誤用を分析し、自己修正できるようになることを目的として、その誤用を直すための指導を提案した。これからも、両校間の学術交流を更に強化していく、日中日本語教育の成果を発表していく所存である。

参考文献

- 1) 石黒圭 (2014) 『日本語教師のための実践・作文指導』くろしお出版。
- 2) 章潔／小嶋栄子／李婷／李欣 (2015) 「日中日本語研究の比較研究 (1)」『長崎短期大学研究紀要第 27 号』。
- 3) 章潔／小嶋栄子／李婷 (2016) 「日中日本語研究の比較研究 (2)」『長崎短期大学研究紀要第 28 号』。
- 4) 章潔／小嶋栄子 (2017) 「日中日本語研究の比較研究 (3)」『長崎短期大学研究紀要第 29 号』。
- 5) 岡本能里子 (2005) 『日本語能力試験合格への道～1 級対策模擬テスト』株式会社アルク。
- 6) 国際交流基金・日本国際教育支援協会 (2012) 「日本語能力試験 Can-do 自己評価調査レポート《最終報告》」。
- 7) 日本語能力試験公式ウェブサイト (<https://www.jlpt.jp/>)

長崎短期大学研究倫理委員会承認【19-短倫-09】